

遺言書の作文例（自筆証書遺言）

# 遺 言 書

遺言者〇〇〇〇は、本遺言書により、次のとおり遺言する。

- 妻△△△△（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生）に、次の財産を相続させる。
  - 〇〇銀行〇〇支店 定期預金 口座番号〇〇〇〇
  - 〇〇銀行〇〇支店 普通預金 口座番号〇〇〇〇
  - 〇〇株式会社の株式 数量〇〇株
- 長男□□□□（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生）に、次の財産を相続させる。
  - 土地
    - ア 所在 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目
    - イ 地番 〇〇番地
    - ウ 地目 宅地
    - エ 地積 〇〇〇〇m<sup>2</sup>
  - 建物
    - ア 所在 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地
    - イ 家屋番号 〇番〇
    - ウ 種類 居宅
    - エ 構造 木造瓦葺1階建
    - オ 床面積 1階〇〇m<sup>2</sup>
- 長女◇◇◇◇（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生）に、次の財産を相続させる。
  - ××銀行××支店 定期預金 口座番号××××
  - ××銀行××支店 普通預金 口座番号××××
- 妻△△△△（〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生）は、次の居宅に住み続けられる。

所在 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

住所 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地

遺言者 〇〇〇〇 ⑩

遺言書の作文例（公正証書遺言）

令和〇〇年 第〇〇〇〇号 遺言公正証書

本職は、遺言者〇〇〇〇の嘱託により証人〇〇〇〇、同〇〇〇〇の立ち会いをもって、  
次  
の遺言の趣旨の口授を筆記し、この証書を作成する。

第1条 遺言者は、相続開始時に遺言者の所有する下記の財産を、遺言者の妻である次の  
者

に相続させる。

受遺者の表示

〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地 〇〇〇〇 （〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生）

記

1 預貯金

(1) 〇〇銀行〇〇支店 定期預金 口座番号〇〇〇〇

(2) 〇〇銀行〇〇支店 普通預金 口座番号〇〇〇〇

2 有価証券

株式会社 〇〇銀行 〇〇支店 投資信託

口座番号 〇〇〇〇〇〇〇〇

3 現金、動産その他の財産全部

第2条 遺言者は、相続開始時に遺言者の所有する下記の財産を、遺言者の長男である次の  
の

者に相続させる。

受遺者の表示

〇〇県〇〇郡〇〇町〇〇丁目〇〇番地 □□□□ （〇〇〇〇年〇〇月〇〇日生）

記

1 土地

所在 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目

地番 〇〇番地

地目 宅地

地積 〇〇〇〇平方メートル

2 建物

所在 〇〇県〇〇市〇〇町〇〇丁目〇〇番地

家屋番号 〇番〇

種類 居宅

構造 木造スレート葺1階建

床面積 ○○平方メートル

第3条 遺言者は、この遺言の遺言執行者として、下記の者を指定する。

記

遺言執行者の表示

○○県○○市○○町△△丁目△△番地 ☆☆☆☆ (○○○○年○○月○○日生)

- 1 遺言者は、遺言執行者に対し、遺言者名義の預貯金・有価証券の名義変更、解約、払い戻しの手続き及びそれらの受領の権限も付与する。
- 2 遺言執行者の遺言執行の報酬は10万円とする。

以上